

## 平成20年度福智町敬老会 これからも元気に社会貢献を誓う

敬老会が9月14日に金田ドームで開かれ、70歳以上1千126人が参加しました。老人会の籠原雄次会長(金田)が「社会の一員として若い人を助け、明るい社会を共に築いていきたい」とあいさつ。式典後のアトラクションでは、保育園児や地元団体が伝統芸能や空手の演武など6演目を披露し、豊かな社会を築いてくれた先輩の健康長寿を願いました。



↑赤池4保育所の元気なおみこしに、思わず笑みがこぼれる出席者の皆さん。

↓「ギリギリで入った」かたずを飲んで見守る、8番ホールのショートパット。



## 福智町グラウンドゴルフ大会 町内74チームの頂点目指して

福智町体協と地区公民館連絡協議会主催の「福智町グラウンドゴルフ大会」が、9月7日に方城グラウンドで開催されました。32チーム218人の参加者は3支部の予選を勝ち抜いた精鋭ぞろい。バラエティーに富んだ8つのホールを攻略しながら、互いの親善を深めました。【結果】優勝：38区東ヶ丘、準優勝：赤池ニュータウン、3位：神崎二C老人会

↓左から代表ウエアを身にまとった仲村くん、高倉くん、堀口くん、井上くん。



## 方城中サッカー部から4人が日韓スポーツ交流に参加 ボールを通じて心通わせた

8月16日～22日に韓国で開かれた日韓スポーツ青少年交流事業に堀田駿くん(伊方)、高倉康平くん(弁城)、仲村貴志くん(伊方)、井上敬太くん(伊方)が日本代表として参加しました。光州スタジアムで4試合に出場した選手たちは「韓国は好守の切り替えが素早かった」「韓国の選手とタオルを交換しました」と貴重な体験を笑顔で振り返っていました。

↓灯火の下、色鮮やかな浴衣に身を包み一糸乱れぬ踊りを披露した踊り手さんの輪。



## 夏の終わりを鮮やかに飾る 水と灯火の夕べ

福智の夏の一大イベント「水と灯火の夕べ」が8月30日に彦山川・中元寺川河川敷合流点で開催され、およそ1千人が会場に集まりました。ちょうちんや紅白幕で飾られたやぐらを囲んだ約30団体150人の踊り手さんが「福智音頭」をはじめ全4曲の舞を披露。その後彦山川では降り始めた雨の中、故人の霊を見送る灯ろう流ししがしめやかに行われました。雨足がさらに激しくなりましたが、810発の花火は途切れることなく、過ぎゆく夏を惜しむかのように夜空と水面を照らし続けました。

## 弁城夏祭り 見上げた夜空に大輪の花

夏休みも終わりが近づいた8月24日に「ふじ湯の里」で、実行委員会主催の「弁城夏祭り」が開かれました。会場に設けられた舞台では、九州大学の学生が2本の長縄を使ってジャンプの技とダンスで魅せるダブルダッチや地元のフラダンス教室によるステージが披露されました。毎年恒例の大抽選会も行われ、会場の熱気は最高潮に。そして最後は、約250発の打ち上げ花火で地域上げてのイベントを締めくくりました。



←手を伸ばすと届きそうなほど間近で上がった花火が夜空を鮮やかに彩りました。

## 梶原信子さん県体水泳で金2つ 県2種目制覇の万能アスリート

8月24日に県営筑豊緑地プールで行われた県民体育大会水泳競技、55～59歳の部で梶原信子さん(上野)がバタフライと自由形で優勝しました。梶原さんは県体や全九州マスターズで活躍する水泳のほかにも、トライアスロンや社交ダンスもこなすスーパーウーマン。「これからもずっと自分自身の記録を更新したい。生涯現役です」と目を輝かせていました。



↑アスリートとしての高い意識で練習に取り組む梶原さん(福智町B&Gで)。

↓夢がたくさん詰まった「ちくまる号」の絵を出島専務に披露する園児たち。



## 金田保育園児が平成筑豊鉄道に絵を贈る ちくまる号復活を願って

今年3月に老朽化のため廃止になったラッピング車両ちくまる号の復活を望む声や、平成筑豊鉄道に届きました。9月9日に金田保育園児32人が書いた絵に「ちくまる号にまた乗りたい」というメッセージを添えて出島専務手に手渡しました。これを受け同社は、本年度末までに導入予定の3両のうち1両に「ちくまる号」の愛称を付けることを検討しています。